

●新型コロナウイルス感染症とワクチン接種について

新型コロナウイルス感染症は感染法上、インフルエンザと同様の５類に位置付けられており、感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」が主な感染経路と考えられています。症状としては発熱や呼吸器症状が一週間前後つづくことが多く、強いだるさ（倦怠感）の報告が多く、特に高齢者や基礎疾患のある方では重症化リスクが高いとされています。

新型コロナワクチンについては、国において有効性及び安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。

効果と副反応を理解したうえで、接種を希望する場合に限り、接種が行われます。（対象者の意思確認ができない場合は、接種できません。）

使用ワクチンのメーカーは医療機関により異なりますので、接種を受ける医療機関にご確認ください。

◎新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種は医師が必要と認めた場合は可能です。

予防接種を受ける前に

気にかかることがあれば、担当の医師や看護師などに質問しましょう。十分に納得できない場合は、接種を受けなくてください。

● 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（一般的に、体温が37.5℃を越える場合）。
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人。
- ③ 予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな人。
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態と医師が判断した場合。

● 予防接種を受けるに際し、注意が必要、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人。
- ③ 過去にけいれんの既往のある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人
- ⑥ 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症又は凝固障害を有する人。

予防接種後の一般的注意事項

- ① 予防接種後24時間（特に接種直後30分間）は健康状態の変化に注意すること。
- ② 入浴は差し支えないが、注射部位を強くこすことはやめましょう。
- ③ 過激な運動、大量な飲酒は、それ自体で体調の変化をきたす恐れがあるので、24時間は避けましょう。

副反応について

主な副反応は、注射部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。接種の翌日をピークに発現することが多く、大部分は、接種後数日以内に回復しています。稀な頻度で、ショックやジンマシン、呼吸困難等の急性のアレルギー反応（アナフィラキシー）があります。

健康異常が起こった場合

予防接種後、まれに副反応がひどくでたり、たまたま他の病気が重なって現れたりすることがあります。接種部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のジンマシン、嘔吐、高熱等明らかな健康異常が現れた場合には、速やかに接種した医療機関に受診してください。

予防接種によって健康被害が生じた場合は、予防接種法、同施行令等に基づき補償を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのか、因果関係を審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、市健康課（電話 24-8806）へお問い合わせください。